

『本音主義 農家が語る農業界への直言、苦言』

太田竜一著（農村報知新聞社）

1 怪奇な書である

B 6 版123ページの小さな本だが、不思議な雰囲気漂わせている。表紙は黒地に白抜きで「本音主義」と大書したシンプルなもの。

「太田竜一」はペンネームなのだそうだが、著者自身、謎に満ちている。巻末の「著者プロフィール」には、「昭和39年 某県生まれ、62年 某農業系大学卒業、同年 就農、平成4年 米の産直を開始」とのみ書いてある。しかし、そのあとについている「講演会のご案内」によれば、「自己責任でこんなに変わる農業経営」「お客様に応える農業経営」「農業者よ、起業家を目指せ」等のテーマで講演活動もしているらしい。

この本は、著者が『農村報知新聞』（03-3523-1975）に連載したコラム「太田竜一の俺に言わせろ！」をまとめたものである。

山下惣一氏が「発刊に寄せて」の中で、なぜペンネームなのか？として、「なるほどこれは仮面でなくては書けない。……ウソで固めたこの世の中では本当のことをいっちゃあいけないのである。」と書いている。副題にもあるとおり、まさに全編が直言・苦言に満ちており、目次にはていねいにも、★から★★★までの「過激度メーター」が付してある。

2 快書にして貴書である

それにしても、このように一気に読ませてしまい、爽快な読後感を覚えさせる本も珍しい。

生産者の顔が見える米作りについて、補助金について、農政について、視察研修について、加工について、輸入米について、規模拡大について、等々、「直言」は幅広い範囲に

及んでいる。具体的な内容は実際に読んでいただくこととして、ここでは、過激度★★★の項からいくつか見出しをご紹介します。

「金を出すこと」＝「守ること」になるのか？

諸悪の根源は被害妄想にあり！

農政分割民営論

農地は国民のためにある

「ラララ無人君」より怖い「営農貸越」
省力化しても「イーミナーイジャーン」

農薬消費拡大的営農指導

補助金は誰を補助してる？

……

勝手に解釈させていただくと、補助金や農政自体を全否定しているのではないと思う。「我々農家自身の意識を改め直すこと」から始めなければならない、それが今一番欠けているのだ、ということが、著者の最も言いたいところであろう。

農業や農政が大波の中で変わろうとしている今日、求められるのは、本音で考え、議論することである。そういう意味で、本書は極めて今日的な、貴重な書であると思う。

なお、文中突然、JAバンクの白瀬泰三君が二度ほど出てきて緊張させられたりするのですが、農協についてはあまり言及がない。いつか、農協についての直言・苦言もお聞かせいただきたいものだと思う。

また、同じ新聞社から出版されている筋金入りの農業経営者4名によるシンポジウムの記録『新しい農業経営者像を求めて』もいい。あわせてお読みになることをお勧めする。

（2002年10月 税込み1,260円 123頁）

（石田信隆）